

市長4期目（令和2年8月～令和6年8月）の所信表明に掲げた政策・施策の進捗状況について

【令和6年度8月時点における評価表】

施策（内容）	項目（具体的な内容）	これまでの主な取組内容及び成果	評価
1 新たな時代の豊かさの実現			
（１）ICT活用による市内経済の活性化 「新しい生活様式」を踏まえ、ICT活用による新たな事業環境の構築や起業・創業を促進するとともに、市内企業同士の取引拡大を推進し、域内循環の向上による市内経済の活性化を図ります。	①ICTを活用した新たな事業活動への支援	・登別ブランド推進協議会等でのインターネット販売の導入やSNSを活用したPR活動等を支援することで、登別ブランドの販路拡大や認知度向上に向けた取組を強化した。 ・香港・台湾で訪日旅行を具体的に検討している層に対し、越境ECサイトを活用した本市の魅力や観光情報の発信、地域産品の販売、訪日外国人旅行者ニーズ調査を実施するなど、アフターコロナを見据えた誘客促進を図りました。	◎
	②民間と連携したカルルス地区への光ファイバーの整備	・令和2年度～令和3年度にかけて東日本電信電話株式会社が国の「高度無線環境整備推進事業」を活用して実施したカルルス地区への光回線の整備等に要する経費の一部を市が負担することにより、カルルス地区への光回線整備を支援しました。	◎
	③企業の強みを明確にし、市民の購買意欲を喚起することによる域内経済循環の推進	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、市内経済に大きな影響が生じていることから、登別商工会議所や登別国際観光コンベンション協会、商店会等と連携し、赤鬼・青鬼チケット（プレミアム付商品券）発行事業を行い、市内消費を喚起し、市内経済の回復を図りました。 ・市内消費を喚起し、市内建設事業者の経営への影響を緩和するため、市内において自己が居住する住宅等の増築や修繕等を行う者のほか、住宅用太陽光発電設備の整備を行う者のうち、希望する者に対し、工事の支払いに使用できるエール建設券を発行しました。 ・エネルギー・食料品価格等の物価高騰により市民生活に大きな影響が生じていることから、家計負担の軽減を図るとともに、市内消費を喚起するため、令和6年4月から使用できる鬼まちペイ（プレミアム付デジタル商品券）の準備を行いました。	◎
	④商工会議所や市内商店会、飲食店組、漁組、農協等と連携した消費拡大の推進	・商店街活性化事業補助金により、商店会等のイベント活動等を支援し、商店街の活性化及び賑わいのあるまちづくりを図りました。 ・水産物消費拡大推進事業実行委員会が登別漁港で行う朝市や夕市を実施しました。 ・新型コロナウイルス対応地方創生臨時交付金を財源に令和4年11月～令和5年2月にかけて登別国際観光コンベンション協会が実施した「湯之国クーポン発行事業（オールのほりべつ割）」では、地域クーポンの利用範囲を商工会議所会員店舗まで拡大し、消費拡大を図りました。	◎
	①JR北海道と連携したJR登別駅内へのエレベーターの設置	・JR登別駅のエレベーター等の設置については、観光客等の利便性の向上を図るため、事業実施主体である北海道旅客鉄道株式会社と協議を進め、令和7年度の供用開始に向けて現在は本工事を行っています。	◎
	②北海道と連携した駅前広場の整備	・北海道においては、平成30年度に基本設計、令和元年度には実施設計を発注し、市においては、駅前広場の都市計画変更手続きを進め、令和2年8月に都市計画の変更を決定したほか、令和4年3月に登別駅前広場用地の取得を行いました。 ・令和4年11月に北海道において事業認可を取得し、北海道の事業実施に向けて市としても北海道及びJR北海道との協議を行っています。	◎

市長４期目（令和２年８月～令和６年８月）の所信表明に掲げた政策・施策の進捗状況について

【令和６年度８月時点における評価表】

施策（内容）	項目（具体的な内容）	これまでの主な取組内容及び成果	評価
1 新たな時代の豊かさの実現			
（２）観光の玄関口である登別地区の活性化 JR登別駅前における観光案内機能の充実やJR登別駅のバリアフリー化、交通結節点としての機能強化など、観光の玄関口である登別地区の活性化を図ります。	③（仮称）登別市情報発信拠点施設の整備	・観光交流センターの建設工事は令和４年１０月に完成し、令和５年３月にオープンしました。引き続き、第二駐車場の整備を行います。	◎
	④廃止後の婦人センター敷地の活用に向けた検討	・庁内における跡地利用の意向を確認の上、土地利用調整会議等において協議を行い、跡地活用の方向性を定めるため、民間事業者から事業提案を受けるサウンディング型市場調査を実施しました。 ・跡地活用における方向性を定めるため、関係部署と協議を図るとともに、民間主導による地域活性化に関する協議会において議論が開始されたことから、その活動を支援しました。	◎
	⑤登別マリンパークニクス施設の民間への譲渡	・登別マリンパークニクスの経営を担う株式会社北海道マリンパークに対し、マリンパークニクスの建物等について、売却を行いました。その売却物件の敷地に当たる用地の取得を行いました。	◎
	①登別ブランド推進協議会と連携し、より多くの人の購買へとつなげる新たな販売戦略・取組等の検討及び推進	・登別ブランドの販路拡大や認知度向上に向けた取組として、宣伝素材用写真のアーカイブ化やインターネット販売の導入などを支援するとともに、アイヌ文様の普及と合わせて登別ブランドを連想させる製品を作成し、PRを行いました。 ・登別ブランド推奨品や登別閨魔やしそばをその場で調理し提供する食のイベント「登別ブランドまるしぇ」を、らび公園において開催しました。なお、令和５年度は「のぼりべつ夏祭り」とコラボ開催しました。 ・令和５年１２月に、登別中央ショッピングセンターアーニス１階において新たに開店した、登別ブランド推奨品を取り扱う店舗「のぼりべつブランドショップ」について、SNSや市広報紙、新聞広告等への掲載やポスターの掲示等によって周知と誘客を図りました。	◎
	②ふるさと納税の返礼品への活用など、新商品開発に向けた支援	・現地決済における寄附の増額及び宿泊施設で気軽にふるさと納税ができるよう、ふるさとｔおらべるの導入やふるさと納税自動販売機を設置しました。また、市内飲食店でチョイスPayが広く利用できるよう、地域おこし協力隊とともに加盟店の拡大を図りました。 ・更なる魅力向上を図るため、開催規模を拡大した「のぼりべつ夏祭り×登別ブランドまるしぇ2023」において地ビールの販売を行う等、多くの方に応援していただける企画を検討するほか、新たな返礼品の企画開発を、事業者及び地域おこし協力隊等と協力しながら取組を進めていきます。	◎
	③育てる漁業の推進や酪農、畜産などの登別の一次産品の高付加価値化や地産地消の推進	・水産業については、ホッキ貝の空貝（死殻）の処分による漁場の改善や胆振太平洋海域漁業振興協議会が行うマツカワカレイの種苗放流事業を支援するなど、資源管理型漁業による漁家の経営改善に努めました。 ・市内で実施するサークル活動などの調理実習に食材提供を行うとともに、地域おこし協力隊と連携し、一次産品のPR動画や写真の撮影を行い、SNS等への投稿をすることにより登別産一次産品の認知度の向上を図り、消費促進に向けた情報発信を行いました。 ・「のぼりべつ夏祭り×登別ブランドまるしぇ2023」において、１次産品を取り扱う登別ブランド認定事業者の出店を促し、１次産品を加工した登別ブランド推奨品を調理・販売することで、登別ブランド推奨品を通して１次産品の魅力発信を行いました。	◎
（３）登別観光の「食」の魅力の向上 登別ブランドや一次産品の高付加価値化を推進し、登別観光の「食」の魅力の向上を図るとともに、新商品の開発を促進します。			

市長4期目（令和2年8月～令和6年8月）の所信表明に掲げた政策・施策の進捗状況について

【令和6年度8月時点における評価表】

施策（内容）	項目（具体的な内容）	これまでの主な取組内容及び成果	評価
1 新たな時代の豊かさの実現			
（4）広域及び全市観光の推進 アイヌ文化などの地域の魅力を発信するとともに、体験や夜間などの新たな魅力を創出し、広域観光や滞在型に広がりを見せる全市観光を推進します。	①新型コロナウイルス感染症の収束状況や国内人口の減少を見据えた地域資源の発掘や観光誘客の推進	・テレワークに取り組む企業の誘致や社員の二地域居住・定住を目指す足がかりとするため、地域の総力を挙げて、ワーケーションの受入環境整備を推進するとともに、魅力ある研修プログラムを提供することにより、全国から企業研修型のワーケーションを通じた観光客の誘客を図りました。 ・グリーンスローモビリティ「オニスロ」を活用した誘客促進の取組を登別国際観光コンベンション協会と連携しながら進めています。	◎
	②「新しい生活様式」に対応するICTを活用した観光情報の発信	・登別国際観光コンベンション協会において整備したICTを活用し、観光客のニーズの変化に対応した観光情報の発信や観光案内を行ったほか、観光関係団体や協議会と連携して、従来のプロモーションに加え、ZOOM等のオンライン会議ツールを活用し、観光商談会へ参加するなど、観光客の誘客に取り組みしました。	◎
	③情報発信拠点施設等におけるウポボイの情報発信及び市内のアイヌ文化の魅力を発信	・観光インフォメーションを中心に、市内のアイヌ関連史跡やウポボイなどの情報発信を行いました。 ・観光交流センター指定管理者と連携し、同センターにおいてアイヌ文化講座等を実施することで、アイヌ文化の普及・啓発を行いました。 ・令和5年が、知里幸恵の生誕120年、『アイヌ神謡集』出版100年にあたることから、知里幸恵の生涯を描いた一人芝居を市内小学校等で上演するほか、市民や観光客が知里幸恵の生誕の森を散策できるよう整備に取り組みしました。	◎
	④登別温泉地区・登別地区への来訪を促すため、虎杖浜・竹浦地区やウポボイとを結ぶエクスカーションメニューの開発に向けた検討	・登別市・白老町観光連絡協議会において、登別市観光交流センターを発着とし、登別温泉地区・虎杖浜地区を周遊するバスツアーを実施し、来訪促進を図りました。 ・国のアイヌ政策推進交付金を活用し、登別温泉やテーマパークとウポボイを絡め、アイヌ文化を軸としたモデルコースを構築するため、北海道内の教職員等を対象としたファミツアーを実施し、教育旅行誘致を図りました。 ・大型バスのラッピングをゴールデンカムイからアイヌ文様に変更し、登別温泉とウポボイ間を運行しました。	◎
	⑤登別商工会議所等が検討しているDMO、DMCの組織設立時の協力・支援	・登別版DMO設立の際には、組織の舵取りを担う団体の設置をはじめ、組織の運営や事業を実施するための人材、財源の確保など課題が数多くある中、登別商工会議所が設立を主導することを表明したところであり、登別市として設立の動きに併せて協力、連携体制を整えています。	○
	⑥カルルス地区の振興とカルルス温泉サンライバスキー場の魅力の向上	・スキー・スノーボードのフルセットをレンタルできる「手ぶらでいぶり」の継続実施やコースの改修などを行うことで、初心者でも利用しやすい環境を整備し、スキー・スノーボード人口の増加を図りました。	◎